

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年3月1日

事業所名 きらり中庄

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	15	4	・ホールだけでなく遊具なしのホールがあると思う（運動課題の為）	・必要な基準は満たしていますが、他事業所とのスペースもある為、出来る限りフラットな空間を工夫して運動課題に取り組めるようにしていきます
	2 職員の配置数は適切である	17	1	・来年度の人員配置が足りるのか不安です ・十分な人数がおりお子さんに丁寧に関わっていると感じます	・職員の配置は十分に満たしています。次年度も同様に職員体制・配置を整えていきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	18	1		・一人ひとりの発達や身体状態に合わせた過ごし方・環境設定を行っていきます
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	18	1	・排泄交換をトイレ内であればなお良い ・掃除や点検など行き届いていると思います	・設備環境では身体の大きいお子さんのトイレ内での排泄交換が難しい現状である為、パーテーションや換気などの配慮をしながら実施していきます
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	18	1		・朝礼や職員会議等で職員の意見を取り入れる機会をもち、業務改善を図っていきます
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	19	0		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	18	1		・法人のHPIにて公開し、事業所にも掲示をさせていただいています
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	18	0	まだ経験がないのでわかりません	・当事業所だけでなく法人内の事業所の受診結果を必要に応じて改善策を取り入れていきます
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	18	0	・虐待防止や人権に関する研修、支援や装具に関する研修などを実施している ・少ないくらい ・コロナ禍で研修が少なくなってしまうが積極的に参加したい ・定期的に設けられています	・法人内の全体研修、事業所内研修などで必要な研修の実施を行っています。今年度は外部のオンラインでの研修も多く参加しやすい状況でした。今後もしっかり知識向上につなげていきます
適切な支援の場	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	19	1	・職場の意見も反映されたプランになっていると思います	・保護者からの聞き取りシートを元に事業所での様子を合わせて作成しています
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	17	1		・法人内の事業所で統一した支援・書式ができるよう情報共有を行っています
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	17	1		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	19	0	・毎朝、その日のお子さんのプランを確認し取り組んでいます	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	15	4	・特定の職員が行うことが多い ・年度初めに作成されている為どのようなプロセスで立案しているのかわからない	・児童発達支援管理責任者が中心となって支援内容の計画を立案します。活動プログラムは今まで実施してきた中で有効だった物や子ども達の良い反応が見られたもの、季節に合わせた体験等をチームで出し合っ立っています
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	19	0	・季節を取り入れた活動や、粗大、微細活動、感覚遊び等時期やバランスを考えて設定している ・1か月同じゲームに取り組む中で変化をつけていっています	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	19	0	・お子さんごとに狙いたい（重視したい）活動が異なり、合わせて作成しています	

提供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	19	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが意見を出しやすい雰囲気づくりを行いたい</li> <li>・職員の出勤時間、退勤時間によりその日に必ずできていない</li> <li>・緊急時対応（発作時の対応等）も毎朝の打ち合わせで確認している</li> <li>・もう少し支援内容が具体化するとうれしいです。その時々になっていることがあります。</li> <li>・朝礼を行っています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員皆がその日の動き、支援内容を確認、意見を言い合える打ち合わせの実施、チームアプローチを向上させていきます。その中で支援内容はより具現化したもの</li> </ul>
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	17	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特記があった場合のみ話し合うことあり</li> <li>・職員の出勤時間、退勤時間によりその日に必ずできていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアコラボも活用しながら支援内容の確認、振り返りを共有しています</li> </ul>
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	16	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳とは別に記録（支援会議録）を残して見返している</li> <li>・支援提供終了時刻＝職員の勤務終了時間の為当日の振り返りは出来ていない。翌日に行っている</li> <li>・ケアコラボで記録をとって</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアコラボを活用して、写真、動画などの記録もしています</li> </ul>
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断して障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	19	0		
関係機関や保護者との連携	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	16	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこまで連携で来ているのか把握できていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援専門員や所属先を中心にお子さんに応じて保健師や医師等とも連携を行っています。今後も連携をとり職員間でもそのことを周知できるようにしていきます</li> </ul>
	22	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	16	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の保健師、保育、教育については把握できていない。主治医障害福祉においては必要に応じ連携した支援を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんに応じて教育委員会等との連携を行っています（特に就学時）</li> </ul>
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	18	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示書は主治医に記入してもらい何かあれば連絡をとったり保護者に確認をもらったりしている</li> </ul>	
	24	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	19	0		
	25	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	17	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関が発信している研修は積極的に職員に案内されている</li> </ul>	
	26	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのない子ども（保育園）とは行事で少し一緒にすごした。全員ではなくごく一部の利用児</li> <li>・行事等で希望すれば活動する機会はあるが日々の療育に取り入れているわけではない</li> <li>・コロナの為出来ていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事で一緒に過ごす機会はあるが、交流までは行えていない。コロナ禍が落ち着いた際には、ニーズも確認しながら実施出来るようにする。</li> </ul>
	27	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	14	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内があれば参加する</li> <li>・把握できていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等で参加の機会があった際は参加し、事業所運営や支援に活かしていく。</li> </ul>
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	19	0		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	18	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は実施出来ていない</li> <li>・希望すれば参加出来るプログラムがある</li> <li>・定期的に機会が設けられていますが、今年はコロナで中止でした</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は開催できませんでした。</li> </ul>
	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	18	1		
	31	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	19	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・登園時や降園時に支援計画の説明をする際には、個人情報への配慮が必要。可能な限り個別に別室で説明を行う。</li> </ul>
	32					
	33					

保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	19	0	・懇談または適宜相談の実施	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	18	1	・茶話会の実施 ・父母の会はない、保護者通しの連携について行事や見学習慣。茶話会など足を運んでもらえる機会を作っている ・茶話会やきょうだい児と保護者の活動を実施している	・次年度は、おやじの会のような男性保護者の方にも力を発起して頂ける場や交流の場を他事業所と一緒にできる機会を考えています
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応して定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	19	0	・意見要望があった時は通信でその都度対応を周知している	
	37	個人情報の取扱いに十分注意している	19	0	・通信を発行しています	
	38	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	19	0	写真の掲載も必ず許可を得ています	
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	19	0	・今後さらに機会を増やしたい。今実施している物は継続・発展させたい	・地域の方と協働できる防災セミナーや就労体験マルシェなどが中止となってしまい実現を図ります
	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	18	1	毎月防災訓練を合同で行っています	
非常時等の対応	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	19	0		
	42	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	19	0	・利用開始前から確認していき書面で対応をまとめて作成している	
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	19	0		
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	19	0	・事例集ではないが過去あったものを全てファイリングしている。報告にあがったものは全て共有している	・ヒヤリハットに至らない日常の中での気づき項目を上げる取り組みを継続して実施し共有を図っていきます。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	18	1		・事業所内研修及び県の障がい者虐待防止研修、権利擁護研修を受講しています。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載して	19	0		
	47					

